

日本大学工学部

校友会報

第 56 号

平成5年3月1日

目 次

ごあいさつ(工学部長、校友会長).....	2
平成4年度第35回通常総会報告.....	3
第12回母校を訪ねる会報告.....	4~6
校友レポート(村中賢一郎).....	7~9
校友エッセー(谷久嘉典、野田吉弘).....	10~11
若葉マークがんばり記(大久保 賢).....	12
同窓会・クラス会・支部総会.....	13~16
校友短信.....	17~18
キャンパスミニメモ.....	19
総会通知・課外活動.....	20



日本大学工学部本館

工 期 平成2年12月~平成4年8月

建 築 面 積 1,328.24m²

建 築 延 床 面 積 4,974.89m²

最 高 部 高 28.25m

鉄筋コンクリート造 5階一部6階建

ごあいさつ



日本大学工学部長

國 分 欽 智

新年初頭における皇太子殿下ご婚約は大変明るいニュースでしたが、バブル崩壊の経済不況はいささかも好転せず、今年もまた深刻な複合構造不況の中になります。校友の皆様にはこの苦境の克服に懸命の努力をなされておられることでしょう。どうぞ1日でも早く好転の曙光（しょこう）が見られますよう心からお願ひして止みません。

さて大学も今年から、18才人口の激減期、冬の時代に突入しました。にもかかわらず、相変わらず大学は新、増設され、その不況構造は深く進行し、バブル崩壊の前夜を予感させています。

これらのすう勢の中で、工学部の重要施策は質的充実以外の何物もないと考えます。その意味で今年4月の情報工学科の設置は、工学部将来の安定と発展のため極めて大きな役割を果たすでしょう。それはこの設置が工学部の改組転換によって行われるからです。つまり既設4学科の入学定員220名を180名に減じ、その減員分160名を情報工学科の入学定員とし、総入学定員は変更しません。そのため6学科の新入学定員は180名～150名となり、教育・研究・管理・運営上、私学としての適切な組織体制への着実な改革が行われます。

この改革の推進力となる情報工学科の教育目標は、これまで、コンピュータユーザーの対応へ偏向していた情報教育を排し、ソフトとハードの両面の基礎教育を重視することにあります。これによって21世紀高度情報化社会と産業界の各方面で、その専門家達と柔軟に対応できる優秀な情報技術のリーダーを養成することができるでしょう。

そして情報工学科の設置によって迎えられる新採用20名の強力な教授陣は、工学部の学術研究体制の強化と活性化に大きな役割を果たすとともに、教育面では既設5学科の基礎教育の中の情報処理教育の充実を大きく支援することになります。右手にペンを、左手にパソコンを駆使する既設5学科の卒業生をぜひ21世紀情報化社会と産業界に送りだしたいと思います。つまり工学部の特色は情報教育重視にあるとのイメージを日大の内外に定着したいのです。

以上の質的改革が昨秋の本館竣工による教育・研究への管理運営のサービス向上によってなを一層加速、充実されている現状は誠に嬉しいかぎりです。

私は今後これらの工学部改革を円滑・順調に推進し、6学科の新体制の総合効果が最大限に実現できますよう一生懸命に努力する所存です。皆様のご声援とご指導を衷心よりお願い申し上げ、あいさつと致します。



日本大学工学部校友会長

半 沢 忠

平成5年の新春を迎え、会員各位のご健勝とご繁栄を心からお喜び申し上げます。平素当会の運営などにつきましては、格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は各支部に出席する機会を与えられ、親しく懇談することができ大変勉強になりました。特に平成4年度通常総会は3年ぶりで、東京の日本大学会館で開催され、事業内容、収支決算、事業計画とその予算案など、御審議を戴き、御承認いただきました。このことは私にとりまして、武田仁幸前会長は勿論ですが、先輩諸氏役員の方々が築かれた校友会の職務を遂行することができたことは、役員一同と共に喜び更に会員各位の為に一層努力することの新たな誓いができましたことは、皆々様よりの何よりの励ましの言葉でした。お陰様で計画致しました事業も予定通り進行したこと心より感謝申し上げます。

更に本紙によってお礼を述べたいことは、日本大学創立百周年記念募金のことですが、平成4年5月31日をもって終了致しました。目標額百億円に対して95億2361万円余の募金を得、初期の目的をほぼ達成できました。募金額は日本大学が21世紀へ羽ばたく為の推進力となる事業に使用されることになっております益々の発展を皆さんと共に期待したいと思います。

さて、バブル崩壊に端を発した平成不況は、第2次オイルショックによる不況を上まわる全業種に及び、優良会社といえども今や生き残りを賭けて自らの体質を改善し、今後の市場の変化に対応しようとしております。景気回復の兆しは、最悪の場合年末とも言われ、余り期待できないものと思われます。

この様な景気の低迷が続く中で、過日発表された白書によると個室を持つ青少年が増え、専用電話まで持っているとか、物品がありあまる現象となっており、お金さえあれば何でも手に入れられ、一見幸福そうであるが、反面読書、活字ばなれがいっそう増え、心の貧しさは益々進む一方である。人と人とのかかわり、特にボランティアなど社会的活動、奉仕への参加が異常に低くなっているのが気になっています。

私は校友会の使命である会員相互の親睦を図ることを第1の目的と心得、今こそ一層親睦を深める必要を強く感じる次第です。今年の干支にちなみ、昨年にまして良い年に致したく今後ともご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、校友各位の益々のご精進とご活躍をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

(工業化学科6回卒 パラマウント硝子工業株)

平成 4 年度第35回通常総会報告
東京九段南・日本大学会館に集う

第35回通常総会が、平成 4 年 4 月 18(土)午後 2 時より、東京の日本大学会館大講堂において開催された。

総会は、橋本事務局長（建10回）の司会で、佐藤副会長（土 6 回）の開会のことばで始まった。次いで半沢会長より挨拶があった。半沢会長は、永い間武田前会長が務めてきた校友会の会長職を引き受け 1 年になるが、会員ならびに役員や理事のご支援やご協力があって会長職をやってこられた、心より感謝すると述べた後、東京開催にいたった経緯や、日大創立 100 周年の各行事が、皆様のご協力で無事終らうとしている御礼などを述べた。次いで佐藤幸助氏（土 3 回）が議長に選ばれ、議事録署名人に加藤木研氏（電12回）、田中敏夫氏（建19回）の 2 名、書記に渡沢正典氏（建14回）、藤山寿一氏（建28回）の 2 名を提案し承認されて、議事に入った。議事は平成 3 年度の諸事項について村田事業部長（土12回）と伊藤経理部長（電16回）から報告、承認された。これらの収支決算について、石井和樹会計監査が、監査結果を代表して報告し、承認された。つづいて、平成 4 年度の諸事項について一括説明提案があり、審議の結果、異議なしで議決、全議案が承認された。その他の質疑応答では母校を訪ねる会の継続に関して質問があり、村田事業部長より今後も継続する旨答弁があった。その他、若干の質疑があった。以上をもって総会が終了し、平野卓氏（土 3 回）東海支部長より閉会の辞があり盛会裡に終了した。

平成 3 年度 4 年版会員総合名簿発行事業特別会計収支決算書

歳 入					
款項	種 類	予 算 額	決 算 額	単位 円 △……未取(減)	
繰入金	1 運用財産より繰入金	3,000,000	3,000,000	0	
	計	3,000,000	3,000,000	0	
名簿代金	2 名 簿 代 金	10,000	84,000	74,000	
	計	10,000	84,000	74,000	
雑 入	3 雜 収 入	0	0	0	
	計	0	0	0	
	合 計	3,010,000	3,084,000	74,900	

歳 出					
款項	種 類	予 算 額	予 算 現 額	決 算 額	比 較 増 減
事業費	1 費 用 金	20,000	20,000	0	△ 20,000
	2 消 耗 品 費	20,000	20,000	0	△ 20,000
	3 印 刷 製 本 費	300,000	300,000	248,591	△ 51,409
	4 通 信 運 搬 費	500,000	500,000	0	△ 500,000
	5 委 託 料	2,040,000	2,040,000	1,929,496	△ 110,504
	6 雜 費	30,000	30,000	0	△ 30,000
	計	2,910,000	2,910,000	2,178,087	△ 731,913
予備費	7 予 備 費	100,000	100,000	0	△ 100,000
	計	100,000	100,000	0	△ 100,000
	合 計	3,010,000	3,010,000	2,178,087	△ 831,913

歳 入 額 3,084,000円
歳 出 額 2,178,087円
差引残高 905,913円を翌年度へ繰越しそう

平成 3 年度一般会計収支決算書

歳 入					
款項	種 類	予 算 額	決 算 額	単位 円 △……減	比 較 増 減
会 費	1 終身会費	10,500,000	11,590,000	1,090,000	
	2 人会金	10,500,000	11,670,000	1,170,000	
	計	21,000,000	23,260,000	2,260,000	
繰過金	3 前年度繰越金	6,284,082	6,284,082	0	
	計	6,284,082	6,284,082	0	
繰入金	4 運用財産より繰入金	0	0	0	
	計	0	0	0	
	5 預 金 利 子	10,000	1,242,349	1,232,349	
	6 負 担 金	0	0	0	
雑 入	7 名 簿 代 金	0	0	0	
	8 雜 収 入	5,918	1,140,500	1,134,582	
	計	5,918	2,382,849	2,366,931	
	合 計	27,300,000	33,926,931	4,626,931	

歳 出					
款項	種 類	予 算 額	予 算 現 額	決 算 額	比 較 増 減
事務費	1 給 料 手 当	4,350,000	4,350,000	4,134,367	△ 215,633
	2 保 險 料	315,000	396,125	396,125	0
	3 交 通 費	700,000	700,000	574,000	△ 126,000
	4 旅 費	50,000	50,000	0	△ 50,000
	5 交 際 費	600,000	600,000	360,910	△ 239,090
	6 需 用 費	300,000	300,000	280,878	△ 19,122
	7 備 品 費	150,000	150,000	144,200	△ 5,800
	8 印 刷 製 本 費	400,000	400,000	180,971	△ 219,029
	9 通 信 運 搬 費	450,000	450,000	258,971	△ 191,029
	10 修 繕 維 持 費	10,000	10,000	0	△ 10,000
	11 光 热 水 費	40,000	40,000	30,000	△ 10,000
	12 分 扱 金	400,000	400,000	400,000	0
	13 雜 費	275,000	275,000	16,560	△ 258,440
	計	8,040,000	8,121,125	6,776,982	△ 1,344,143
事業費	14 製 織 対 策 費	1,000,000	1,000,000	903,930	△ 96,070
	15 会 報 発 行 費	4,000,000	4,000,000	3,748,882	△ 251,118
	16 会 員 管 理 費	2,100,000	2,173,431	2,173,431	0
	17 名 簿 作 製 費	500,000	500,000	438,145	△ 61,855
	18 下 宿 対 策 費	10,000	10,000	8,124	△ 1,876
	19 図 書 供 与 費	300,000	300,000	300,000	0
	20 式 典 費	2,000,000	2,000,000	1,679,830	△ 320,170
	21 母 校 訪 問 費	200,000	269,714	269,714	0
	22 負 担 補 助 援 費	600,000	600,000	550,000	△ 50,000
	計	10,710,000	10,853,145	10,072,056	△ 781,089
会議費	23 総 会 費	600,000	600,000	515,917	△ 84,083
	24 段 届 会 費	250,000	250,000	79,615	△ 170,385
	25 連絡協議会費	400,000	400,000	300,619	△ 99,381
	26 旅 費	700,000	839,180	839,180	0
	計	1,950,000	2,089,180	1,735,331	△ 353,849
繰戻金	27 第 1 回 連 繕 協 議 会 費	300,000	300,000	167,784	△ 132,216
	計	300,000	300,000	167,784	△ 132,216
積立金	28 積 立 金	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0
	計	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0
予備費	29 予 備 費	1,300,000	936,550	0	△ 936,550
	計	1,300,000	936,550	0	△ 936,550
	合 計	27,300,000	27,300,000	23,752,153	△ 3,547,847

歳 入 額 31,926,931円
歳 出 額 23,732,153円
差引残高 8,174,778円は翌年度へ繰越しそう

財産の状況（平成 4 年 3 月 31 日現在）

一般会計	特別会計	引当財産	運用財産	合 計
8,174,778	905,913	3,104,244	20,881,718	33,066,653

第12回「母校を訪ねる会」

今回から卒業後、20年と40年を招待



平成4年10月25日(日)、第12回母校を訪ねる会が催された。開設45年を記念して、今までの卒業後20年めの会員に加えて、今回からは40年めの会員も招待することになった。会には40年めの専門部工科の1、2回生が39名、20年めの工学部20回卒の卒業生が156名の合計195名の出席があった。

また、前日夜の各クラス会もそれぞれに賑わった。

専門部土木工学科(第一回卒) クラス会 国分 貞典

「第12回母校を訪ねる会」が吾々専門部1回生の順番である事を知り、それでは前夜祭にクラス会を開こうと言う事で、急遽母校に近い月光温泉（安積町）で平成4年10月24日にクラス会を開催しました。

クラスメイトで現在母校にいる杉内祥泰先生から母校の近況を伺ったり、国会で忙しい中を駆け付けて来られた谷本たかし参議院議員から国会での活動情況を聞かせてもらったりで盛会でしたが、中には卒業以来40年振りで会う懐かしい顔もあり、学生時代に戻って、昔話に花が咲き、本当に楽しい一夜でございました。

私達のクラスは戦後間もない昭和22年に、移転したばかりの専門部工科に入学した仲間達で、軍隊や海外からの引揚者等も多数居り、年令もまちまちでバラエティーに富んだクラスです。

校舎と言っても海軍航空隊が使用していた木造兵舎

をそのまま転用したもので、風雪をヤット凌げる程度の建物で、冬は教室の片隅に火鉢が一つ置いて有ると言った状況でした。それでも勉強に対する熱意は旺盛で、戦争で荒廃した国土の復興は俺達がやるんだと毎日張り切って通学したものでした。

卒業時に73名であった仲間もすでに相当数が故人となり、一抹の淋しさを感じますが出席者全員で校歌と若きエンジニアの歌を齐唱しお開きとしました。

翌日はホテルの車に送られて、北桜祭で賑う母校を訪ねる事が出来ましたが、校内の変わり様にはただただ驚くばかりで、木造校舎の面影等は偲ぶべくもなく、ただ変わりなく流れる阿武隈と、遠く遙か連る山並みとを眺めながら、母校のますますの発展を祈念し、一同また元気で会える日を楽しみにしながら校内をあとにしました。

(日本プラフォーリー郡山営業所)



「母校を訪ねる会」に参加して

藤原英芳



平成4年度の第12回母校を訪ねる会は、10月25日㈯前日の雨模様とはうって変わって秋晴れの好天気の中盛大に行われ、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

また、今回は卒業して40年をむかえる専門部卒業の大先輩も30人以上加わり合同で懇親会などができ、より有意義な会となつたと思います。

前日は、市内のホテルに50人以上の土木の同期生が集まり同期会が行われ、会場ではその殆どが卒業してはじめて合わせ久し振りで懐かしい顔、顔、顔……。別れがたい気持ちで二次会、三次会と深夜まで昔懐かしい郡山の街で呑み続け、入学してすぐの学園紛争のこと、寮や下宿でのこと、大学での授業やクラブ活動のことなど話題が尽きず20年前にタイムスリップしたように感じました。

20年の歳月は私にとっては短かったように思いますが、その間に大学は校舎が新しくなったり、増設されたり、外見が立派になったばかりでなく、優秀な卒業生を多く輩出していること等々我々の知らないうちに大きく変貌を遂げており、誇らしく思うと同時に思い出が少しずつ無くなっていくようで寂しく思いました。

また、不惑の歳がすぎ外見は腹が出たり、頭が白くなったり薄くなったりして学生の頃の若々しさは無くなっただけれど、公私に亘って悩みごとも多いはずなのに、皆が生き生きとそれなりに若さを保っていることに驚き、頼もしく思いました。

最後に、この様なことでもなければ母校にも来られない、先生にも会えない、多くの同期生が集まれないことも残念ながら事実で、この様な楽しい会を催して頂いた大学並びに校友会の皆様と同期会の幹事に心から感謝すると共に、皆様の健康とより一層の活躍をお祈り致します。近い将来再び一同に会する機会を持ちたいと考えておりますので、その節は宜しくご協力をお願い致します。

(土木工学科20回卒 基礎地盤コンサルタント㈱ 技術本部設計部)

「母校を訪ねる会」に参加して

鍋島正憲

平成四年には「母校を訪ねる会」がある、その時は一緒にあって見ようか。何年か前からそう話していた。

そして、10月24日苫小牧市の西村氏と新千歳空港で待ち合わせ一路20年前の地へ。仙台そして東北新幹線で郡山へ快適な数時間の旅の後、様変わりはしているもののそこはまさしく青春の4年間を過ごした地、郡山でした。郡山研修会館に荷物を置き、まずお世話になつた下宿の日の出荘と富久山荘へ行くことにした。驚いたことに日の出荘はマンション風に建て変わっていました、昔と少しも変わらないおじさんが元気に「大判焼き屋」さんも経営していた。次に近くにある富久山荘へ行ってみた、なんと我々の入っていた下宿は跡形もなく、新築用の基礎工事が行われていました。こちらのおばさんも元気に迎えてくれ3人で乾杯をしました。さらに石井荘で原氏と待ち合わせ、第20回電気工学科同級会の開かれる郡山ビューホテルへ向かった。車中、日の出荘でよく聴いたドヴォルザーク「新世界」のクラリネットが、せまる夕暮れに聞こえていたのは私だけだつただろうか。同級会では中山発起人代表の挨拶から半沢校友会長の一言、それから一人づつの近状報告「高知からきた東です…」「オッス渡部だ覚えてるか…」等々、時が経つ程に盛り上がりを見せ、次回は磐梯熱海温泉で会おうと校歌を合唱し2次会へ、10月の夜風がとてもすがすがしかった。

夜中に部屋に戻ると、同室に新潟から、訪ねる会に出席するために来られた先輩がすでに休んでおられたが、目を覚まされ40年目にお会いできた先輩と話がはずんで、いつ頃眠ったのかよく覚えていない。

10月25日は、絶好の日和に恵まれ村山氏のワゴン車で工学部へ。第12回「母校を訪ねる会」は、國分学部長の挨拶に始まり各学科の同期生に学部・校友会関係者との歓談を行いました。なつかしい日大節で宴も最高潮に達しあつという間に終わった気がします。関係者のエネルギーがみなぎる心温まる会でした。



その後、情報研究棟のレストランで一休みしたが、秋のやわらかな日差しを受けた阿武隈山系の眺望はすばらしく、旅の最後にふさわしいものでした。

20年目に訪れる機会を設けていただいた工学部と校友会そして同級会発起人の皆様に心よりお礼申し上げます。 (電気工学科20回卒 札幌市交通局建設部)

「訪ねる会」に参加して

村上 芳巳

何回目の母校を訪ねる会だったか忘れたが、4～5年前一度訪れているので前回程驚かなかったが、この数年間一段と整備が進んだことには目を見張るものがあった。また教育内容の充実など工学部長の説明を聞き一段と認識を新たにしました。大学当局のたゆまぬ努力あってのことと感謝申し上げます。

思えば私は戦争の爪痕も生々しい昭和22年日大の専門部が移ってくるというので戦争のためろくな勉強もできなかつた事など行く先のことも考え県土本部を辞めて入学したのであった。向学心に燃えての入学ではあったが、環境は厳しいものであった、その一つは基礎学力不足殊に工学の基礎である数学の知識不足は致命的であった。他の科目と同じ様なものであった。

当時専門部が移ってきた初年度であった事もあって設備充実をお願いに駿河台校舎に吉田先生を訪ねたことがあったが、私にとっては自分自身の充実が先であり学校の設備充実を要求する余裕のある友人を羨ましく思ったこともあった。二つ目はお金が無い事であった。当然の事ながらアルバイトもした、郡山市戦災復興事業の土工が主たるものであった。これは重労働のため腹が減って参った。ご法度である閑屋家業もしたがそれでも生活費を貯えるものではなかった。いずれにせよ3年間は私なりに頑張ったし有意義であった。そして30余年の現役は無事終えた。あれから40数年を経過した今、変わっているのが当たり前、当然の事ながら懐かしの賃取橋はいまは無い、木造の学び舎もない。しかし面影は随所に残っていた。当時は風景を親しむ余裕などなかったが阿武隈川河畔のあかしやの並木にたたずむ校舎、そして近代化された設備、こんな環境に恵まれたキャンパスは他にあるまい、優秀な学生が棲立ち益々評価が高まる吾が母校を確信する。

(専土木1回卒)

が全く様子を一変しているのには驚いた。元の下宿先に入つて見ると、しだいに懐かしさが込み上りてきた。

学内に入ってからは、8ミリビデオで、いろいろな催し物を撮影したが、建物等の施設が充実されていて、催し物が盛大になっているのに驚いた。記念撮影をしてパーティーが行われた、旧友とは名刺の交換を行い写真を撮ったがみんな元気そうで自然と元気が沸いてきた。パーティーが終わってから、同期である土木科専任講師の藤田豊さんと二人で学内を回り、現在の土木科の状況がある程度把握できた。彼の研究室に入つて仕事、友人等の事で話がはずんだが、私も研究所勤務のせいだと思う。

それから車に乗つて、三春の里に行き、ラムネと餅を御馳走になり郡山駅まで送つてもらった。千葉の家に着いたのは、夜8時を過ぎていたが、ビデオを家族に見せると、日大工学部の立派な様子に感心していた。

(土木工学科20回卒 若築建設株)

「母校を訪ねる会」に出席して

安藤 幸広

20年ぶりに郡山の街を訪れてみて街のかわりようにびっくりした。新幹線が開通し新しいデパートもでき駅前の様相もがらりとかわってしまった。昔の下宿を訪れるときまわりの環境の変化には20年の時の流れを感じさせるものがあった。母校の正門の前に立つとまだ当時のおもかげがあり少し安心した。しかし一步校内に入ると新しい建物、建築中の建物など発展していく姿をみるとわが母校の頼もしさを感じたものだ。そして学部長の話を聞くとわが母校の社会的評価も随分と高くなり今後期待されるところも大きいとのことで大変なうれしさをおぼえたものだ。唯一昔のままでなつかしかったのは後英学寮である。我々の時は2～3人の合部屋であったが今は個室となっている時代の流れのようである。今回の母校を訪ねる会での収穫は昔の仲間達に会えたことだ。なつかしい顔をみるとまるで20年前の学生時代にタイムスリップした感じで本当に楽しい時をすごさせていただき、今回の会を企画された方々にお礼を申し上げさせていただくとともに、今後こういう機会があれば参加したいと思います。又、諸先生方の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

(機械工学科20回卒 アイシン精機株)

「訪ねる会」の一日

水長 喜信

10月25日(日)朝5時に起床して千葉市を出発し新幹線で郡山に着いたのは8時20分であった。

バスで日大工学部に着いて安積商業高校近くの下宿先を探したが見つからないので地元の人聞いて、ようやく見つけた。名称も帝京安積に変わって、付近一帯

第13回母校を訪ねる会

日 時 平成5年10月24日(日)(予定)
対 象 第1回卒業生(昭和28年3月卒業)

第21回卒業生(昭和48年3月卒業)

前日同級会など開催され多数出席されるようお待ちいたします。

北国(北海道)からの便り



〈はじめに〉

私の住む街、砂川市は、南北12.7km東西10.5kmの広さで、ほぼ北緯43度40分、東経141度52分の位置にあります。西は石狩川をへだてて新十津川町、北は空知川をへだてて滝川市、東には、連なる山地に赤平市、歌志内市(現在人口約8千人、日本一人口の少ない市)、上砂川町、そして南は奈井江町と接しています。北海道は広大な土地を有し、明治政府によって開発の鍵が入れられてから約130年にもなります。現在も北海道開発庁の指導のもとで開発が進められております。したがって、土木や建築学科を卒業された先輩、後輩方々の中にはこの北の地域で、街の発展、北海道発展の為、日夜、努力されている方がおられます。

このたび、校友会事務局より、会報に掲載する記事の依頼がありました。工学部機械工学科を卒業した者の中では一番北の地に在住とのことであろうと思い、お引受け致しました。

内容は携ってきた仕事の苦心談、将来の展望などとのことです。卒業後は種々と自社製品の開発等を考え、試作製品なども手掛けたりもしましたが、市場もあまり良い地域とは云えず、現在は大手企業の下請け、採用をさせていただきながら技術の向上と良い製品作りに従業員と共に日夜努力しています。

〈親子2代、兵舎及び渡辺としさんに世話を聞く〉

昭和40年、目的の大学皆不合格。浪人生活を送ろうかと考えていたところ、高校の担任の先生より、日大第二工学部も良い大学だよといわれ、急遽郡山で入試を受けることになった。試験日前日、丘珠空港から飛行機に乗り、仙台迄行き安積永盛駅前の旅館に着いたのは午後4時頃と記憶している。当時は我町から東京迄は青函連絡船を乗り継いで約25~26時間は要した。初めて乗った飛行機(オランダ製フレンドシップ双発プロペラ機)は津軽海峡上空より三沢基地に着陸する迄の間、気流にもまれ乱高下した。仙台空港に着陸した時は内心ほっとしていた。

3月10日頃、合格の通知を受け取り入学することになった。入学式には父も一緒に郡山迄送つて来てくれた。道中汽車の中で父から聞かされた話では、戦前、郡山には海軍航空隊が在った。父が徴兵で初入隊したのが郡山海軍航空隊整備科であったので(昭和19年5月入隊)、郡山には世話をになった方が居るとのこと。入学式前日に郡山に着いた父と私は、その方を訪ねてみ

北海道砂川市(有限会社) 村中機械製作所

専務取締役 村 中 賢一郎

ようと、父の25年前の記憶をたよりに安積永盛を南の方向に向った。小さな小川とその角に派出所があり、その裏手に住まっていた木田としさん。としさんは戦争で御主人を失われたと聞かされていた。その場所には派出所はなかったが小川も家も昔と変らず在った。表札は違っていたが事情を話したところ、その方は大野屋さんに再婚されたとの事、場所を教えていただき郡山駅前通りから旧国道二本松方面に向って、角より3軒目大野屋(お茶屋)さんを訪ねた。今日は娘さんの所(日和田)へ行っているとの事、連絡をとっていただき、日和田へ着いたのは入学式前日午後3時過ぎであった。再会できた父も昔を振り返り、としさんとの話も弾み、二人の会話の中で第二工学部が郡山第一海軍航空隊の跡地であることを初めて知ったのだった。

二人の出会いは、父が新兵として入隊当初、上等兵による連日連夜のしごきを受けていた時である。初めての休暇がとれた新兵4人で安積永盛を散歩がてら歩いていた、行きかう上等兵には敬礼ばかりさせられ、又歩き疲れもあり派出所裏の小川の柵に腰をおろし休んでいる時に、としさんが声を掛けてくれ、家の中で休ませてくれた。彼女も勤労奉仕で飛行場の整地、排水作業にかり出されていた。休日にはお邪魔させていただき彼女の里から送られてきた『いも』、『かぼちゃ』等を煮てはふるまってくれた。私も学生時代、孫の様に気遣っていただいたこと、私も父と同様24年前を想いながらお礼を述べさせていただきます。現在も元気にお暮しの様子です、ありがとうございました。

〈我街の工業都市化と石炭から石油へ〉

我街の人口は現在2万3千人、年間最高気温は33℃位、最低気温は-23℃位です。11月下旬には積雪し翌年の2月には1.5m~1.8m位も積もります。4月中旬になって雪がとけ始め、5月の連休になって平野部の雪がとけ遅い春を迎える北海道でも一番の豪雪地帯です。明治政府による移民政策と屯田兵制度による開拓がなされ急速に発展をした地域です。我街の発展にとって歴史的に大きな契機となったのは明治36年の三井物産本挽工場の創設に始まります。当時は鉄道も我街迄しか敷設されておらず、石狩川、空知川、雨竜川の合流点の下流にあり、流送木の陸揚げに適していたことが理由で、蒸気機関を動力とする最新設備は東洋一を誇り、製材能力も1日6百石(168立方メートル)と云われていた。又隣町の上砂川、歌志内、赤平、奈井江には有望な炭層があることは明治の初期には調査され明らかにされていたが、三井、三菱、住友鉱山に

より採炭を始めたのは大正の初めとされている。昭和14年10月には、東洋高圧工業株北海道工業所の起工式が行なわれた。九州、大牟田で石炭のコンビナートの建設に成功した三井はその技術をもって、空知炭田の中央部に位置する砂川に100万トン規模の硫安工場を建設する計画を立てた。三井美唄炭を中心とする原料炭と豊かな石狩川の工業用水を利用して、低コストのアンモニアを作り硫酸を加えて硫安を製造し海外へ輸出するという雄大な計画であったようで、その市場も国内はもとより満州、朝鮮、中国などアジア全域を想定していた様です。建設工事は戦中の物不足、人不足によってなかなか計画通りには進まなかつたが、昭和21年4月になって硫安の生産が開始された。またその後、尿素、過磷酸石灰の設備を建設し生産は好調を続けていた。又戦後の電力事情の悪化により東洋高圧への割当て電力量の不足によって減産に追い込まれたため、昭和24年には発電所建設に着手した。一方、近隣の炭鉱向けダイナマイト製造を目的に北洋火薬砂川工場が建設されるなどして企業が立地し、砂川を一躍工業都市へと進展させることが出来た。昭和28年頃は三白景気といわれ、砂糖、セメント、化学肥料が非常に良い時期であった。東洋高圧の従業員数も増えづけ、最高を記録した昭和33年には3千名を越えており、砂川の街は企業城下町として栄え、益々繁栄するものと誰しもが信じて疑わなかった。昭和38年頃からは石炭を原料とした肥料の生産では、国際競争に勝てなくなつて来ており、合理化を余儀なくされ、大阪泉北地区の臨海工業地帯に原油を利用する工場建設の着手により、東洋高圧北海道工業所の合理化及び経営の多角化が進められた。昭和40年過ぎには従業員の配置転換がどんどん行なわれ、設備の解体が始まると縮小の道を歩み続けるがその反面、新しい分野の企業を興し経営の多角化が計られ現在に至っています。その頃、私は学生で父の経営する鉄工所も東洋高圧の各種部品の製作、修理の仕事をさせていただいており、常に会社の事を心配しながらの郡山時代を過ごしたことを想い出しています。

父が鉄工業を始めたのは昭和21年8月、24才であった。15才で大阪にある大阪機工株の養成技能工として就職。21才で徴兵により、郡山海軍航空隊に入隊する迄の6年間は旋盤工として、技術、技能を身につけさせていただいたとの事。終戦をむかえ田舎に戻り、戦火で焼けた英式旋盤を1台買い求め、轍を作り、町の鍛冶屋として生計を立てほそほそと暮らしていたが、前述した様に、東洋高圧の施設の建設に係る部品の製作及び定期修理に要する部品の製作は膨大な量であった。自社工作課だけでは賄いきれず外注先として利用していただける様になり、昭和25年頃には年輩の旋盤工も2名ほど雇つても経営が成り立つ程になっていた。昭和30年頃には近郊の炭鉱からも仕事をさせてい

ただける迄になり、以後順調に会社を大きく伸すことが出来、昭和40年には従業員も20名位と記憶している。私は昭和44年卒業と同時に川崎に本社のあるプレス機械メーカーに就職させていただきました。3年間修業を行なうさせていただける会社を希望しておりましたが、なかなか引受てくれる企業がなく、当時進路指導を担当された並木先生には大変お世話になり就職先を決めていただきました。その会社での最初の1年間の仕事は出来上った機械の精度検査をさせていただきました。本社工場、下請工場の製品検査又客先への納品、立会検査等毎日を充実した気持で仕事をしていました。2年目は設計課に移り受注した機械の仕様変更、新機種の設計等毎日遅くまで図面書きなどに追われていた。学生時代あまり勉強に励まなかつたことを後悔させられた時期であった。幸いにも先輩がおられ指導、助言もいただき私の力不足を補なつていただいたことを感謝している次第です。3年間の約束を2年間で退社し、田舎に帰らなければならなくなつたのは、工場が手狭となり又住宅地の中の工場であった為、近所の住民からの騒音、振動に対する苦情問題がもち上がり、工場移転の計画をせざるを得なくなつており、工場建設を急がねばならない時期であった。田舎へ帰った私の最初の仕事は工場建設の責任と、各種部品製作の図面書きであった。建設費をいかに安くし、余力資金を新しい工作機械の購入費に廻すかであり、又生産を落すことなく軌道に乗せ売上げを伸ばしていくかであった。最初は200坪の工場を業者に依頼して建てた。その後の工場増設は自社加工で造り上げ、400坪の機械工場と400坪の製缶工場が完成したのは昭和53年の暮れであった。

その後は我社の仕事受注も順調に推移することができ、会社の経営も安定していた。そのころ、中空知の基幹産業である石炭産業の縮小、閉山が進み近隣市町の人口は激減をしていた。ちなみに中空知5市5町の



現在の工場（前側：機械工場）（後側：製缶工場）

昭和35年の国勢調査人口は31万2千人であったが、平成2年の調査結果では15万6千人となり、およそ50%までに減少している。

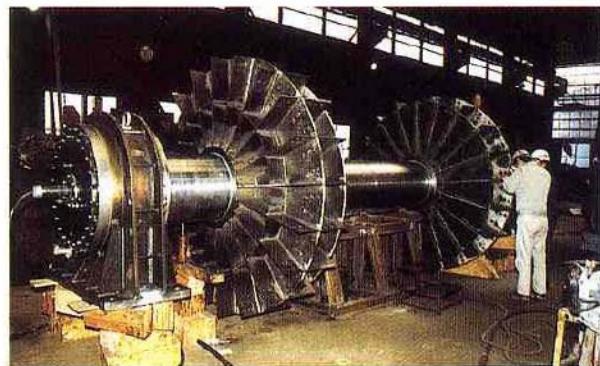
〈三井石炭砂川鉱業所の閉山と我社のその後〉

昭和62年の三井砂川鉱業所の閉山は我社にとってはものすごい痛手となった。売上げの約50%を占めていた客先がなくなってしまったのだから。閉山になる2年前位から仕事の発注も抑えがちとなり閉山の時期は近いと感じ、新しい客先を確保しなければと焦る気持ちの日々が続いた。当然小さな田舎街のこと経営危機の噂が流され私の耳にも聞えてきた。確かに仕事量は減っていたが我社の各種工作機械の設備は、大型車で輸送できる範囲のものは加工出来るほど整っていた。130m³中ぐり盤、4M³ブランミラー、2,800m³正面旋盤、6M³軸用旋盤、1,600m³ラジアルボール盤、500tプレス等、田舎の工場としてはそれなりの評価をされていた。我社の強みは製缶加工、機械加工、組立加工と総合的な加工が出来ることである。さらに品質管理も優れていたことなど危機説がささやかれる中で、創業40年の歴史は充分とは云えないが、かなりの体力を蓄えていた。現在の工場が完成した後はかなり広い範囲の仕事の受注が出来る体制は整ってはいたが、我社を育ってくれた地元企業を第一と考え浮気などせず耐え忍んだ。その頃道内の地方自治体は生活環境整備又はスキー場のリフトの増設などが行なわれ、リフトの駆動部及び從導部の製作、遊戯施設の観覧車の中心部とその駆動装置関係、ジェットコースター駆動部、制動装置、汚水処理施設の機械部品関係などを主として手がけ、蓄積した技術を閉山後は他の分野に向けることが出来た。又鉄骨に代わり木の良さも再認識される様になってきていた。

三井木材砂川工場では大断面の集成材を生産し曲線加工が出来、その接合部の金物製作及接合方法など共同で試作などを進めてきた。その最も大きな建屋が6年前に完成した洞爺サンバレス大浴場である。現在では我社が手掛けた製品の大半は道内はもとより本州方面にも納入出来る迄になり、売上げも最盛期に近づきつつあります。特に昭和63年～平成元年にかけて購入



写真：洞爺サンバレス大浴場建方風景



写真：横浜国際花と緑の博覧会向け

したマシニングセンター、N C旋盤、CADシステム、自動プログラム機の活躍は、より精度の良い製品作りに貢献し商品価値を高めています。閉山の経験は今迄以上に足、腰の強い企業に成長した様な気がしている今日この頃です。

〈おわりに〉

田舎に戻って22年の歳月が過ぎ、町工場から一企業へと脱皮しこれからが本当に企業の真価を問われる時代に入っている。27才で専務になってその荷の重さ、責任の重大さを感じ家庭など振り向かずの生活であった。今思うには、外見（建物、機械）は大きくすることは易いが、人はなかなか大きく育たない。企業とはトップの能力以上の人は育たないものです。今後は、私自身も更に研鑽にはげみ人材育成に力を入れ、めまぐるしく移り変る技術革新の波に呑込まれない様努力



写真：観覧車出荷状況(青函博向け)

し、苦しい時に頑張ってくれた従業員が我社に勤めて良かったと云われる様な企業にしたいと思っています。

依頼されました内容とはかけ離れたものと思いますが、私の育った地域、環境、これから地域の発展と共に我社の進むべき道、又学生時代などを想い出しながら筆をすすめました。今年、私の娘も東京の地に就職します、入社時には一緒に上京し、これを機に大きく変貌した工学部、4年間生活した郡山を訪ね、お世話になった多くの先生方及び学部に残り研究をされている友と再会したいものと思っています。

(機械工学科17回卒)

私の人生航路

工学部校友会 四国支部長 谷 久 嘉 典



平成5年の新春を迎えられ、校友の皆様にはいかがお過ごしでございましょうか。国際社会の中で、数多くの難問をかかえ、また、大変な宿題を課せられた日本ではありましたが、それでも2、3年前までは何とか好景気を維持しておりました。

しかし、今日の経済動向は、あの好景気がまるで嘘のような状況で、沈降の極にあると申しても過言ではないと思います。

校友の皆様におかれましても、多かれ少なかれ、この変動の影響を受けて、行先不透明な日々に、力を尽くして対処されているものと、推察しております。日大新聞によれば、卒業生の中で、社長として重責を担っている者の数が、他に比べて一番多いと報じられておりました。更に、これ以上の方々が、社長予備軍として、各地で種々の職場で活躍されているのですが、本学卒業生の一人として、大変喜ばしく、また誇りに思っている次第です。

昭和35年3月、無事大学を卒業し、郷里の香川県は瀬戸内海の小豆島へ帰ってきて、早や、30年の歳月が過ぎてしまいました。この間、3人の子供と、3人の孫にも恵まれ、妻と共に多忙な毎日を過ごしております。また、多くの方々のご援助とご指導を戴きながら「土木のコンサル」と「地質調査」の二つの会社を経営しております。お陰様で、まがりなりにも、地域社会に認められた企業にまで成長いたしました。

今から思いおこせば、私の人生の原点あるいは出発点は、郡山での4年間がありました。輝く青春のこの時期に、私は、実にたくさんの方々と出会いうることができました。それは、いつも変わることのない友情を惜しみなく与えてくれる同級生の面々、また、学生委員会（学生の自治組織）に縛を置いた関係で、日本大学校友参議院議員、田沢智治先生をはじめとする多くの先輩の方々であります。私は、この出会いの中で、人生にとって極めて貴重なことを、どんなに沢山学ばさせていただいたことでしょうか。思えば、いつも感謝の念で胸が一杯になります。社会へ出てからの生き方を見い出すのに、本当に参考になりました。

「自分に与えられたところで、最善の努力をせよ。あの時に、このような人が居たのだ、と後世の人々に語りつがれる様な人間になろう」、私は、こうすることが、この世に生を受けた人間の、存在そのものであると確信して、今まで、社業に務め、地域社会の発展に、微力ではありますが、努力して参りました。

しかし、このように申しても、社会は、そんなに甘いものではありませんでした。

夢と希望に胸をふくらませて、実家に帰ったのが、22才の春でした。5月に建設会社を設立し、どうにか仕事を始めだした7月、父の突然の「胃ガン宣告」と「手術」、社会に出て、まだ右も左も定かでない私には大変な「ショック」でした。しかし、ただ悲嘆にくれてばかりもいられません。こんなとき、私を励まし、力づけてくれたのが、他ならぬ、諸先輩の方々であり友人諸君であります。何くそ負けるものかと、気をとりなおし、郡山での楽しかった事、苦しかった事を想い出しながら、一生懸命に頑張りました。父はその後4年間闘病生活を送り亡くなりました。

私はこの4年の間に、人口2万5千人の町の町議会議員に、25才の若手議員として当選しました。事業の方も順調に発展し、順風の思いでおりましたが、好事魔多し、と申しましょうか、35才の時、過大投資が原因で、会社は多くの負債を抱えて倒産してしまい、家屋敷も無くしてしまったのでした。この時も、本当に親身になって心配し、励まし、ご援助下さったのは、再度、他ならぬ先輩であり級友であり後輩の方々であります。この時ほど、校友の方々の有難さを思った事はありませんでした。工学部を卒業して本当に良かったと思いました。妻や子の為にも、また、ご心配を戴いた校友の方々の為にも、再度、立ち上がりなければ決意した次第でした。幸いにして、妻の協力を得て二人だけの測量会社から再出発することができました。妻はなれない手付でボールを持ち、テープを引張り、休みの日には子供達まで手伝う有様でした。20年余の努力の結果、何とか今日を迎えることができましたが、私は、校友の皆様に対し、唯々、ありがとうございますと申し上げる以外に言葉はございません。

香川県には、工科校友会香川県支部がありますが、工学部の卒業生だけを含む、香川県アカシヤ会を先輩や後輩のご協力を得て設立しました。これは、私が校友会活動の重要さを身をもって体験しましたので感謝の意を込めて、いささかのお返しをと思ったからであります。その後、工学部校友会四国支部と発展し校友の縁は一層深まりつつあります。昨年12月香川県工科校友会の総会では、工学部校友の、香川県土木部主幹鎌田正昭君（昭41卒）が工科校友会の支部長に選出されました。工学部卒業生で当支部長に就任された方は、全国では2人目、同君は3人目だとのこと、各支部長の益々のご活躍をお祈り致しますと共に、校友の皆様のご発展とご健勝を祈念申し上げます。

（本会評議員 土木工学科8回卒 株谷久工務店）

ウィーン、ホーフブルク宮殿での国際会議

工業化学科助教授 野田吉弘

平成4年11月28日朝、新聞を聞いて驚いた。「ウィーンの旧王宮、ハプスブルク家の居城、ホーフブルク宮殿焼失、損害は110億円」の記事がある。実は、その約1ヵ月半前の10月4日から8日まで、このホーフブルク宮殿で「第12回フレーバー、フラグランス、精油国際会議」が開催され、参加したからだ。この学会、なかなか大きな学会で同伴者を加えると1千名以上の参加者があり、参加登録料が日本円で約11万円もすることもあって至れり尽くせりであった。10月3日夕、オープニングセレモニーがオーフブルク宮殿であり、オーケストラが「美しき青きドナウ」を奏でる中、パレエを見せてくれたり、その後場所を市庁舎のラートハウスに変え、オープニングカクテルパーティーがあった。

翌日から、宮殿が学会の会場になり、多くの講演がなされた。毎昼食はバイキングスタイルでワインをはじめとする飲みものまでおかわり自由だった。6日夜にはウィーン市街からバスで約30分くらいの郊外で、今年収穫されたブドウで作られたワインを飲ませてくれるホイリゲイブニングがあったり、最終日の夜には



フルコースでの食事を写真のように舞踏会を見ながらとることができ、まったくすばらしいの一言だった。その宮殿が工事の火が引火して焼失したと聞いて愕然とした。もう写真の宮殿内を見ることはできない。それにしても、千名以上の参加者をバスで移動させたり、一度に食事を出したりの学会の幹事さんの苦労も大変なものだが、一度にそれだけの人数を収容できる施設、設備をもっているウィーン市もたいしたものである。

学会後、帰国便がパリ発だったので、パリまでの自由な一人旅となつた。とにかくどう行程をとってもよい。まったく予定なしで、ユーレイルフレキシブルパ

ス5日間を日本で購入して行った。ウィーンからICE（インターライナー、日本のL特急）でドイツのヴュルツブルクへ6時間の旅。ヴュルツブルク大学へ留学していた友人から一度ぜひ行ってフランケンワインを飲んで来いと云われていたからである。街全体がまったく中世のまま。一時間半ほどで市街を徒歩で回れる。すばらしく美しい古い街。街の東側に広がる丘陵にはブドウ畠が見える。早速、スーパーでフランケンワインを購入。（後日、郡山市内で同じワインをみつけたら約3倍の値段にビックリ）。ドイツワインにしてはあまり甘くなく、独特的の味、ウマイ。夜ワインを片手に宿でテレビを見ていたら、9月27日からICEというドイツが開発した、最高速度が280km/hの超特急列車がスイスのチューリッヒまで開通したとか。とにかくこの列車に乗ってみたくなった。次の日ボンまで行こうと



思っていたが、ヴュルツブルクからはハンブルク方面にしか行っていない。取り合えずどうにかなるだろうと乗車してみた。ファーストクラスだったせいもあるが、すばらしい設備。約1時間ICEを満喫。フルダという小さな街で乗換え。ここでハンブルク発、ミュンヘン行のICEが交差する。ここからまた約1時間フランクフルトまで通算2回ICEに乗れた。フランクフルトからはライン川に沿ってボンへ、さらにベルギーを経てパリに。

パリでは筆者が5年前にスイス、チューリッヒの連邦工科大学（ETH）に留学していたときにアパートの隣室だった当時の学生さんと再会し、久しぶりに飲みあかした。

最後に、今回の学会出張には、平成4年度日本大学工学部海外学術交流資金をいただきました。関係各位に感謝いたします。

(本会評議員、工業化学科19回卒)
[写真右：ウィーン市内にて]

新入社員 = 無我夢中



私の勤務している蝶理株は、文久元年(西暦1861年)に京都西陣にて生糸問屋として創業し、昭和23年に蝶理株式会社として設立された織維商社です。また昭和31年には石油化学の将来性に着目して、合成樹脂、化成品の取扱い並びに各種機械及び諸物資の取扱を開始して総合商社として現在に至っています。

私が入社してはやくも一年近く過ぎてしましましたが、振り返ってみるといろいろな事がありました。まず4月の新入社員教育研修では、商社マンとしてのマナー、商社のしくみ、役割などの基礎知識を2週間徹底的に仕込まれました。また、英語、簿記のテストが毎日繰り返されていて、私は自分の英語力に感動?してしまいました。やはり商社マンとしては英検2級程度は必修科目であり、英語以外の外国語も最低1ヵ国語が話せないと、突然の海外駐在の時に苦労してしまいます。そのほか研修中では新人30人を4グループに分け、ソフトボール、商談のシミュレーション、電話の応対などを各グループ対抗で競いました。この研修で新人の横のつながりが深まったと思いました。

2週間の新人研修が終って事業部ごとの配属が決まり、私は化機物営業会計(つまり化学品、機械、物資の経理)に配属されました。ここでの仕事は主に、営業活動のバックアップとして、請求書の発送、売掛金の回収、集金などお金を扱う業務が中心です。初日に配属先で課長から「ここでの仕事は大変忙しい」との一言に私は嫌な予感がしました。2~3日後、私はこの言葉の意味がよく解りました。与えられた対応先の会社は50社で、私は大変不安になりました。しかし、優秀な先輩に囲まれていたので、とりあえず4月中は、無事に過ごせましたが、5月くらいからミスが目立つてきました。請求書の発送ミス、集金忘れなど4月中は先輩がいつも横にいてくれアドバイスをしてくれましたが、5月からは自分で判断し行動しなければならないからです。この頃から私は電話に出るのが嫌になりました。商品のクレーム、単価違い、納品が遅いなどの対応先の工場、二次店(つまり卸先)からの電話です。しかし、慣れてくると嫌な相手とも世間話が出来るから不思議です。また電話で4月は「お世話になっています」が5月は「まいど~」になっています。

蝶理株東京本社 大久保 賢

月末は集金が多いので私の仕事は大変忙しいです。1日10件位の集金が目標ですが、実際にこの目標は難しいです。集金先では、集金以外に商品について説明や注文などを受ける場合があり、たまに「アララ、どうしましょう。払う手形(お金)がないですケド」という場合、私自身も大変困ってしまいます。また、取引先に不渡り(倒産)が発生した場合の取り立てには苦労させられています。

この様なつらい仕事も夜になると話は変わります。私自身お酒は好きですが、商社マンの酒の飲みかたには、ビックリしました。先輩、後輩の関係もなく、ただひたすら飲むので私は皆さんのペースについていくのに大変でした。午前2時頃家に帰り、翌朝9時に出社すると、午前中アルコールが抜けずに青い顔で働いています。とは言っても年末は忘年会が多く、取引先の人達や同僚などと楽しく過ごしました。

また4月から社内スキーパーに所属して3月の商社会のスキーパー大会を目指して頑張っています。スキーパーでは、いろいろな先輩に会えて自分自身大変勉強になりました。私の仕事が織維以外のグループなので織維グループの人と話せる機会はめったに無いからです。

これからの目標は今私が受け持っている取引先件数が2倍、3倍になっても対処できる様になり、また英検と簿記2級を目指して、週2回の英会話で勉強中です。また英語以外の何語を学ぼうかと考えていますが何語にするか迷っています。私は会社に入社してからこんなに勉強させられるとは思いませんでしたが、実際は社会人になってからの方が身につきやすいと思います。なぜなら勉強すれば即自分の戦力として武器になるからです。この武器を多く持ちたいと思います。そして経理職から営業職へ早く移りたいと思います。

私は工学部では土木工学科で学びましたが、畠邊的な商社に就職してみて1年間必死に努力しました。まだまだ力不足ですが、これからも努力を惜しまず、「当って碎けろ」の精神で物事に立向って行きたいと思います。最後になりますが学生でも社会人でも資本は「健康な体」です。社会に出てから改めて強く実感しました。これから就職なさる皆さんも学生時代を有意義に過ごし、健康な身体で社会に出て頂きたいと思います。皆さんも頑張って下さい。

(土木工学科40回卒)

同窓会・クラス会・支部総会

『土木工学科アカシヤ工友会について』

土木工学科6回卒 佐藤吉新

私は、昭和32年度に土木工学科を卒業した者ですが、同級会は2年毎に担当方部を決めて盛大に行っているところです。最近では平成4年10月には岩手県・宮城県内在住の方々の担当で3日間の予定で夫婦同伴を原則として、木村先生、杉内先生御夫婦を迎えて、秋保リゾートホテルクレセントに於いて、10月3日に開催致しました。夫婦同伴者は23組、単身者は26人で合計72人と木村・杉内両先生御夫婦で総勢76人の出席者がいました。今回の同級会の特徴としては、通常総会として第6章からなる会則を定め、事務局の設置と、会員の資格を日大第二工学部土木工学科に昭和29年度入学した者、又は昭和32年度卒業した者を以て組織する。(転校、又は中退者を含む。)として、その範囲を広めて規定したこと、そして各称を表記の如く日本大学工学部土木工学科アカシヤ工友会と称して、事務局を会長宅に置くこととしている。尚会長は1名、事務局員は3名とし、会長には私が選任され、事務局員には田母神忠孝君、秦裕君、安田禎輔君が任命されました。尚総会までの準備に付いて今回担当幹事である川越健也君(仙台市ガス局)の努力による所が多く、又開催地のホテルクレセントは担当幹事の菅原史君(同ホテルの専務)の多大なる御支援により2階コスモスの間で6:30より洋食のフルコースを10卓に別けて盛大に行われ、2年振りの再会を手を取り肩を叩き合いながら、恩師を招き35年前に戻り話しに花を咲かせる人、又第2の職場で既に活躍している人又は孫の話しに目を細める人で、夜の更けるのも忘れる程でした。尚総会では次回の担当地区が決定され、平成6年度の総会は沖縄で開催されることが決定され、大城晃御夫婦に担当をお願いし総会を閉じました。尚翌日は仙台市内、松島を見学して帰る人、又松島のパレス松洲に宿を取り最後の夜を日本三景の一つの松島の夕暮れに、西村・望月・鈴木・秦野・大城御夫婦で懇う楽しさを満喫させて頂き川越御夫婦の努力に感謝する次第です。

尚本総会前には今までの総会の経過と総会前の岩手県担当による事前旅行の計画があり、10月2日水沢江刺駅集合で水沢3倅人館めぐりで、プラザイン水沢泊まりで地元出身の板谷建設社長の多大な支援と御厚情に預り盛大な宴会を催し、又夜の水沢探訪で気勢を上げ、翌日総会開催時間までには水沢よりマイクロバスで板谷社長の案内による嚴美渓・黒石寺・中尊寺・毛越寺を見学して、秋保入りして総会に出席した次第である。省みて担当幹事の皆様には非常な御努力を重ね

させた事についての御礼と、立派な組織を作って頂き、工友会が中心となり今後会員相互の連絡はもとより、喜びも悲しみも互に分け合ひ、励まし合える工友会に育てて行き度いものと決意を新たにするものです。

(株共立コンサル)



建築学科第10回卒業「アカシヤ会」

頭本太二

平成4年10月24日「アカシヤ会」(昭和36年度建築学科卒業生の同級会)の30周年記念懇親会が、郡山市内でご来賓の先生5名をお迎えし、同級生35名の出席で盛大に開かれました。4年前の東京で催した時に申し合わせで、30周年は是非郡山の母校を訪問しようという要望が今回実現したものです。

出席者は南は九州四国、北は青森山形の遠方からも参加があり、正に30年振りという仲間が、卒業以来初めてという恩師を囲み、夜遅くまで懇親をはかりました。また当日有志20名によるゴルフコンペも「白河高原カントリークラブ」で行われたのですが、その結果も発表され和氣あいあいの中でお聞きになりました。解散のあとは、当時の下宿を訪ねる人、当時の飲み屋を探す人、それぞれ30年前の想いを胸に、学生時代の面影を求めて、すっかり変わった深夜の郡山の街を徘徊したことでした。

翌25日は母校を訪問。丁度北桜祭の最終日でしたが、催しものを見ながら校舎が群立する様相に、目を見張るとともに、当時の懐しい教室を見つけ暫し感慨に耽りました。当時はコンクリートの建物といえば、改築された管理棟と2号館のみで、あとは木造の兵舎を利用したことを思えば信じられないような光景がありました。

モダンな工学部本館の竣工、情報工学科新設の工事を目の当たりにして、工学部の着実なる発展に安堵しながら、昔、青春を語り合いながら通ったアカシヤの林

は如何?と昔ながらのアカシヤの林を歩き、安積永盛に抜け、工学部のますますの発展を祈念しつつ帰途につきました。

「忙中、閑あり」一日頃の喧騒を忘れさせる有意義な2日間であったことをご報告いたします。

(建築学科10回卒 松村組東京本店)



自動車部O.B.会創設30周年記念式典

O.B.会会長 高山治雄

昨年は工学部自動車部O.B.会の創設30年に当たりました。その記念大会を平成4年11月21日に、郡山の研修会館で行いました。大学からの来賓として一色忠夫先生・小林力先生(学生生活委員長)・自動車部顧問藤原雅美先生(物理)が出席され、O.B.は36人、現役50人が参加しました。(注:自動車部創設ではなく、自動車部O.B.会が出来てからです。昭和38年勤労感謝の日、日比谷・松本楼での設立大会から30回目ということになります。)

O.B.会役員として、30周年の歴史の節目にふさわしい記念行事を考えた結果、現役の次の10年に飛躍を期待し更に伝統を築くため、この機会に、できるだけ多くのO.B.に郡山へ出向いていただき、現役を応援し、現役との交流を深める事を計画しました。

先ず、恒例のO.B.定期総会で、平成4年度の事業報告と会計報告。5年度の事業計画でのウーズレーの車検代・保険料の予算を決議し、現役からは4年度の活動状況の報告を受け、とどこおりなく終了しました。



続いての自動車部O.B.会創設30周年記念式典は、来賓・O.B.会会長の挨拶に続き、樽酒の鏡割りで開会。ウーズレーのビデオ上映のほか、O.B.からは昔の現役時代のこと、また現役からは自動車部のマークのこと21世紀のエネルギーの話などに花が咲き、記念式典は盛会裡に終わりました。その後は各グループと現役で2次会3次会をしていたようです。翌日の皆さんの感想では、初期の目的は果たされたのではなかろうかとの意見でした。(工業化学科8回卒 日本石油加工株)

写真:上左・ガレージ集合時、上中・定期総会、上右・記念式典挨拶、中左・記念式典乾杯、他は懇談風景

スキー部創立30周年記念式典 吉沢周蔵先生の喜寿を祝う会

体育会スキー部O.B.会副会長 平 弘一

平成4年11月22日、浅草ビューホテルに於て、上記祝賀会を開催致しました。

当日は、蓬田和夫学部次長、伏見士郎教授、吉沢周蔵先生、O.B.56名、現役37名、経済、農獣医、芸術、理工、生産工、薬学の各学部スキー部の代表と合計105名の出席を得、又校友会及O.B.各位より祝電をいただき、盛大に開催する事が出来ました。

同好会創設、部への移行、そして全日本大会、岩岳大会優勝と、当スキー部に最大の御尽力をいただきました、吉沢先生が平成4年1月に喜寿を迎えられ、ますます御健在であられ、心からお喜びを申しあげ、O.B.会より旅行クーポン券を贈呈致しました。

又この30年良い事ばかりでなく、一時期も絶えだの時期がありました。このような現役をサイドから支援するのもO.B.会の役目と、まずO.B.183名のリストを再整理し、栄光の時代の復活に思いをはせ、吉沢先生、伏見先生への敬意、O.B.同志の懇親を目的に、O.B.会を活性化する事によって、現役への力と成り得るようにと、寄付金等を募集したところ、多数のO.B.の賛同を得、おかげさまで、現役にクロカンセット等を贈ることができました。

当日は上野勝久【富士高分子工業株】O.B.会長【工化14回卒】、伏見部長の挨拶、吉沢先生のお札の挨拶、又来賓の蓬田先生の挨拶のあと祝宴に移り、皆学生時代に戻ったようで「お前年取ったな」が合言葉になりました。



和氣あいあいの楽しいひとときを過ごしました。最後に現役主将中山君のリードによる日大節、副将友光君のリードによる校歌を全員で歌い、又の再会を誓いあって閉会となりました。

最後になりましたが、校友会より校歌等のカセットをいただき、誠にありがとうございました。

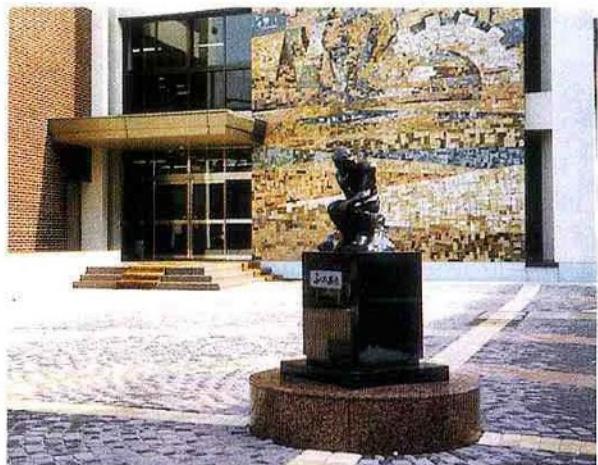
又平成5年には30周年記念スキーハウスも計画しております。多数のOBの参加を待っております。

(建築学科17回卒 日動起業株)

ロダンの考える人・レプリカ像を 学内に設置して

〈ワンゲル結成30周年記念事務局〉

佐々木 洋志



野山を愛し、ともに汗を流して同じ釜の飯を食い、沈む夕日に恋を語り、昇る朝日を見ながら未来を夢みた仲間は、全国に散らばり、その数237名。

ワンゲルは、昭和37年4月23日同好会としてスタート。5年刻みで現役とOBとが協力して活動をしてきた。5周年、15周年は現役とのスキー合宿。10周年は磐梯山頂に方位盤の設置。20周年には、開成山公園にアメリカハナミズキの記念植樹。25周年は安達太良山記念登山と岳スキー場に智恵子抄の碑を設置した。

30周年は学内に記念のモニュメントを!とのOBの声を受けて、学内顧問(菅野宗和・片山善重)、学外顧問(秋田陽一郎・高橋文治・森亮二)の各先生方のアドバイスを受け「ロダンの考える人」のレプリカ像を寄贈しようと計画した。校歌の「文化の香りいや高し…」を実現しようとの声でもあった。

全国のOBに寄付金の呼び掛けを開始する。物事はスンナリといかない程面白い。様々な声を聞かせて頂きながら、前年の30周年記念式典での費用やカンパをも含めて約180人のOBから、結局360万円もの善意が寄せられた。

設置場所の検討を重ねた結果、工学部創立45周年記

念として、学部のシンボルとも言える本館が完成し、キャンパスの整備が進む中庭の本館と図書館前の広場に設置することに決まった。この間、国分欽智学部長はじめ学生課長の森栄一課長や庶務の方々に多人のご協力を賜わった。紙上をかりて深く感謝申し上げる次第である。

「ロダン像の除幕式をするので出席を願いたい」との要請を受け現役とOBとが出席して、除幕式に臨んだのは、9月12日であった。木下茂徳総長ご臨席のもと、菅野先生から経過報告をして頂き、総長と道又OB会長とが白い布を引いて、爽やかな秋晴れの青空の下にロダンの像がその姿を現した時は感激であった。大学からは「こうした記念のモニュメントが増え、文化の香り満ちるキャンパスにと思っているので、ワンゲルがそのパイオニアの役割を果してくれた」との感謝の声も頂いた。

さて、10月24日の北桜祭の申込には、ワンゲル主催の除幕式を開催した。学部長はじめ多くの先生方、関係者や現役OBの出席のもとに改めて除幕して、情報研究棟8Fで記念パーティーも行った。席上、30周年を記念したワンゲルの機関誌「ふみあと30歩」の発刊が披露された。これはワンゲルが創部以来、発行し続けてきた「ふみあと」を総集編したもの。カラー写真も含む198ページの大作は、ワンゲルが辿ってきた30年の歴史が集約されている。この機関誌は、大学の図書館や関係部署にも贈呈させて頂いた。

ワンゲルの現役とOBの夢は果てしなく広がる。曰く「山小屋を造ろう!」「スキーと温泉に入れる所に基地を!」今後は、大きな夢が正夢になるよう、次の目標に向かってまた、ゴソゴソと活動を展開してみたい。

(尚、ロダン像準備中の昨年の平成4年5月6日、30年間ワンゲルの学外顧問として公私にわたりお世話を下さった「秋田陽一郎先生」が突然に逝去された。秋田先生は日大の大先輩で、スキーのご指導を始め、学外顧問の大学の代表としても長年ご活躍された。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます)

(土木工学科14回卒

パーフェクトリバティー教団町田教会教長)



平成4年度各支部の総会

○東海支部総会

平成4年7月10日(金)
名古屋市 国際サロン
参加会員 約40名
本部から 半沢忠会長
来賓 紺野忠教授ら15人

○九州支部総会

平成4年7月10日(金)
福岡市 セントラルホテル福岡
参加会員 約50名
本部から 佐藤吉新副会長
来賓 高木昭教授ら8名

○北海道支部総会

平成4年7月11日(土)
札幌市 札幌アートプラザホテル
参加会員 約50名
本部から 半沢忠会長
来賓 蓬田和夫教授ら8名

北海道支部

支部長 松山忠牡(土14回) 東急建設㈱
事務局長 松久房夫(土14回) 札幌市下水道局

東京支部

支部長 吉村和夫(土3回) 古村建設㈱
市川市国分4-16-13

東海支部

支部長 平野卓(土3回)
東京エンジニアリング㈱名古屋支社
事務局長 河野叶(土6回) 秋芳技研㈱

九州支部

支部長 湯村筑後(建10回) 福岡県建築住宅センター
事務局長 今福英充(建16回) ㈱イマフク

四国支部

支部長 谷久嘉典(土8回) ㈱谷久工務店
事務局長 北岡保之(化14回) 高松市役所

オリジナル製品「アサカラー」で世界に雄飛

日本の自動車全メーカーに採用され、各種メーター類、オーディオ、エアコン等の照明を一手に引き受け、シェア100%を誇るカラーキャップ「アサカラー」を始め、新製品開発で大きく成長しています。

若い皆様の来社をお待ちしております

会社概要



設立 昭和45年4月
資本金 1億4,224万円 代表取締役 伊藤巖
従業員 204人 工業化学科
売上高 30億円 4回(30年)卒
営業品目 カラーキャップ「アサカラー」・理科
科学機器用ゴム製品・スイッチ用接点
ラバー・音響機器用ゴム製品・自動車用
ゴム製品・時計・計測器用ゴム製品

平成5年入社者 金平隆史(博士前期課程)
(工業化学専攻)

工業用ゴム製品製造・販売



株式会社 朝日ラバー

本社 埼玉県川口市赤井2-13-11 ☎(0482)85-2251(代)
福島工場 西白河郡泉崎村字坊頭窪1番地 ☎(0248)53-3491(代)

校 友 短 信

土木工学科

◇榎田 寛治（専1回卒、高田機工株東京支店理事）
去日の母校を訪ねる会に出席し、非常になつかしく楽しい一日を送りました。ありがとうございました。
(H. 4. 12. 1受)

◇大竹清四郎（専1回卒）
専門部が郡山に移設されて、本造兵舎跡で勉学した40数年前が、今は懐かしく思い出されます。訪ねる会には残念ながら欠席します。
(H. 4. 9. 18受)

◇中村 和郎（専1回卒）
定年後、財団法人文京区地域振興サービス公社文京区民センターで頑張っております。近況を知りたいので校友会報を待っています。
(H. 4. 12. 3受)

◇堀江 充（20回卒、山口県庁土木建築部）
徳山土木建築事務所で頑張っています。S63～H3にかけて、山口県内で2番目に長い周防大橋(1,040m)を完成させました。山口県を代表する斜張橋です。記録映画もできました。
(H. 4. 9. 22受)

◇山之内 哲（20回卒、株地崎工業北海道支店）
朝里ダムの試験湛水のため、残念ながら訪ねる会に欠席します。森山有三・山田英一両君に宜しく。
(H. 4. 9. 21受)

建築学科

◇先崎 定雄（専1回卒）
今年から老人会入りの年齢ですが、まだ元気で働いています。10月末には岩手山まで行くことになっていますので、訪ねる会には欠席します。皆様のご健康と盛会を祈ります。
(H. 4. 9. 12受)

◇菊地 啓吾（専2回卒、菊地啓吾建築設計事務所）
40年めの母校を訪ねる会に出席します。私こそ、平成4年度、建設大臣表彰を受賞しました。多年にわたり建築設計監理業及業界役員の業績により栄誉を受けました。
(H. 4. 9. 22受)

◇池添 隆（20回卒、株間組海外建築部）
現在モロッコ王国にて、O.D.Aの案件の仕事に従事しています。残念ではありますが、懐かしの郡山には飛んでいけません。訪ねる会に欠席します。
(H. 4. 10. 1受)

（校友会の事務局へのお便りや、連絡などから
無断で掲載いたしました。ご了承ください。）

◇菊谷憲一郎（20回卒）
昨年8月1日付で、京成電鉄株から株オリエンタルランド建設部に転籍しました。東京ディズニーランドの経営会社で、新アトラクションの設計監理等を担当しております。アメリカ側のデザイナーとの打合せなど、日々忙しく働いております。
(H. 4. 受)

◇佐藤 儀男（20回卒、大成建設㈱）
現在、日本大学工学部情報工学科棟新築工事（建築関係）の担当として、お世話になっています。母校のために、情報化社会のニーズに応えるにふさわしい、すばらしい校舎の完成めざして頑張っています。
(H. 4. 9. 28受)

◇鈴木 俊朗（20回卒、不二サッシ㈱大阪工場）
みなさんお元気ですか。卒業してもう20年になるのですね。月日のたつのは早いと言うか、すっかりオジサンになってしまったと目がかすみ、老化現象が始まりだした今日この頃です。卒業以来ずっと大阪で、最近は変な大阪弁もうまくなり、阪神フィーバーに酔っています。
(H. 4. 9. 24受)

◇高井 豊（20回卒、清水建設㈱九州支店）
卒業して早や20年が過ぎたのかと自分ながらもおどろきと年令を感じています。3年前に九電玄海工事事務所に転勤となつたため訪ねる会には出席できません
(H. 4. 9. 30受)

◇長倉 春樹（20回卒）
Bangkok のタイ竹中に勤めて3年になります。訪ねる会に欠席します。
(H. 4. 9. 14受)

機械工学科

◇坂井 邦貴（16回卒）
本田技研工業㈱の研究所で、自動車設計開発業務に15年ほど従事した後、現在はHONDA R&D NORTH AMERICA INCの社長として、ロスアンゼルスに在住しています。日米の貿易摩擦など、難かしい時期ですが、自動車産業の発展のためがんばっています。ここにも校友会報や日大管弦楽部の定期演奏会の知らせなどが届き、楽しく読んでいます。
(H. 4. 4. 13受)

◇井田 光則（20回卒、マックス㈱）
只今はマレーシアへ転勤中ですので、訪ねる会には欠席します。
(H. 4. 10. 19受)

◇江口 重光 (20回卒、防衛庁航空自衛隊那覇基地)
訪ねる会はすばらしい企画です。しかし、演習と重なり参加できなくて残念です。遠く南の島より成功を祈ります。PKO等にご理解を申し上げます。

(H. 4. 9. 14受)

◇鈴木 勝久 (20回卒、スズキ株生産技術本部特装車グループ)

訪ねる会には社用と重なり出席できなくて残念です。現在、スズキの特装車グループで「何でも屋」として働いております。在学中は、一色先生、柳沼先生、宇野原先生、蓬田先生等々の諸先生に大変お世わになつたことを思い出します。郡山に在学中は学内ののみならず、地域の人々や文化に接し、人格形成の上でも役立つと思っています。

(H. 4. 9. 21受)

◇戸沢 英昭 (20回卒、株本田技術研究所朝霞研究所)
訪ねる会には仕事の都合で、出席できません。一昨年の夏、猪苗代方面に遊びに行った際、校内をちょっとのぞかせてもらいました。川沿いの道には建物が増え、開成山付近の道も変わっているのに年月を感じました。

(H. 4. 9. 22受)

◇広瀬 賢三 (20回卒、株山一製作所)

現在、マレーシアにて仕事中です。残念ですが、訪ねる会には欠席します。

(H. 4. 10. 17受)

電気工学科

◇東 正 (20回卒、四国電力株高知営業所)

あれから20年の歳月が過ぎ、みちのくで学んだ日々と雪だけのギラギラ輝く太陽が、遠い昔の青春映画の1コマのように懐かしい思い出になりました。時が移り自動車道・新幹線が開通し、我が母校・同級生は今……？訪ねる会に出席する前から久しぶりに心が浮き浮きしています。

(H. 4. 9. 30受)

◇内藤 憲雄 (20回卒、内藤電気株)

現在、地元で、東海地区を中心に電気工事会社の社長をしています。訪ねる会に出席して、皆様に会えるのを楽しみにしています。

(H. 4. 9. 28受)

工業化学科

◇高坂 彰夫 (専1回卒、1回卒、山形大学工学部)

母校を訪ねる会の当日は、学会出張のため残念ですが欠席します。10月末日に母校で行なわれる化学会の学会に出席予定ですので、母校の発展を見学させていただくのを楽しみにしております。

(H. 4. 9. 12受)

噂のページ

◇五郎丸英博君 (土19回卒)

平成3年11月25日、「中小支間道路橋における低周波空気振動の推定に関する研究」で、日本大学(理工学研究科)から博士(工学)の学位が授与されました。昭和48年4月から工学部に勤務、現在は専任講師として活躍されています。

◇佐藤 恒夫君 (専土木1回卒)

専門部に在学中から王子製紙に勤務されたあと、スケートの国際大会などで活躍され、数々の栄光を得られましたが、平成4年9月16日に逝去されました。カットは当日の読売新聞の記事です。ご冥福をお祈りいたします。

れいこ	文告別代田	分、日本冬季五輪スピードスケート	佐藤
さん。	山区東京別院最乗寺	肺不全の病院で死んでいます。	恒夫氏
喪主は妻、令子	式は白山195日午前32年前の11時で11時66歳のから	16日午前4時4時30分、日本冬季五輪スピードスケート	(さとう・
	山区東京別院最乗寺	1952年オーストロ・	
	式は白山195日午前32年前の11時で11時66歳のから	1952年オーストロ・	

◇八幡 鶴男 (専1回卒)

中学校を平成元年に退職して、全く違う日本信託銀行新潟支店の嘱託として働いています。皆様には大変お世わになりました。

(H. 4. 9. 12受)

◇佐藤 計広 (20回卒、日本クエーカー・ケミカル株)

仕事の都合で訪ねる会に出席できずに残念です。現在、会社人間になりきって頑張っています。

(H. 4. 10. 14受)

◇鈴木 健一 (20回卒、小田原瓦斯株)

小田原ガスに入社し、20年が経過しましたが、今年4月の異動で、小田原ガスグループの西湘ガス産業に出向しております。元気でやっています。

(H. 4. 9. 30受)

◇高見沢 徹 (40回卒、T D K株平沢工場開発部)

入社から4か月がたち、研修期間を終え、秋田の平沢工場配属となりました。

快明泰

(H. 4. 8. 24受)

CAMPUS

mini—MEMO—

◇情報工学科の新設が認可

平成4年12月21日、文部省から情報工学科の新設が認可されました。平成5年4月から入学者を迎えることになります。これにともなって入学定員は次のように改められました。

土木工学科	180名	(H220名)
建築学科	180名	(H220名)
機械工学科	180名	(H220名)
電気工学科	180名	(H220名)
工業化学科	150名	(H150名)
情報工学科	160名	
計	1,030名	(H1,030名)

昭和22年に開設以来、5学科制できた工学部も、45年を経て、6学科制で再スタートを切ったことになります。

◇校友の母校での教員

平成4年4月1日付で昇格されました。

教 授	西村 孝 (土13回卒) 工博
	倉田 光春 (建17回卒) 工博
助 教 授	柳沼 力夫 (化7回卒)
	長坂 宗男 (電14回卒)
	杉浦 義人 (電15回卒)
	小川 清 (機16回卒) 工博
	渡部 弘一 (機16回卒)
	長沢 幸二 (電20回卒)
専任講師	竹内 彰敏 (機28回卒)
	長尾 光雄 (機28回卒)

◇福地・小倉・師橋の三先生が退職

福地利夫(建築)昭和42年7月1日～平成4年5月29日
定年退職

小倉 崑(一般)昭和36年3月1日～平成4年6月10日
定年退職

師橋勇二(建築)昭和26年4月1日～平成4年12月29日
定年退職

なお、福地・小倉の両先生には、平成4年6月25日、日本大学から名誉教授の称号が授与されました。

◇小角義次先生御逝去

一般教育(英語)の小角義次教授は、平成4年7月2日、病気のため逝去されました。享年56歳でした。小角先生は昭和43年4月1日から本学に勤務され、多くの業績を残されました。ご冥福をお祈り致します。

◇工学部本館の竣工式

平成2年12月から工事が進められていた「工学部本館」は管理棟のあった場所に建設され、平成4年9月12日、木下茂徳総長ら多くの来賓の参加のもと、竣工式が行われた。1、2階は学生への事務サービスのフロアで、3階以上に学部長室や会議室などが配置されている。

また同日、ワンドーフォーゲル部結成30周年を記念して寄贈されたロダンの像の除幕式も行われた。



◇情報工学科棟地鎮祭

平成4年7月29日、情報研究棟(8階建)の北側の地で、情報工学科の中心となる情報工学科棟の地鎮祭が行われた。

鉄筋コンクリート造陸屋根屋階付5階で、平成5年9月に竣工の予定。

◇日本大学大学院工学研究科だより

- ①平成3年度、次の3名に博士(工学)の学位を授与。
広川協一：医療施設選択行動の時系列変化に関する
数量的研究 H. 3. 11. 25
山本 登：密結合マルチプロセッサシステムの構成
法の研究 H. 3. 11. 25
小川 清：吸収熱伝達の向上に関する研究
H. 4. 3. 16

小川氏は機械工学科16回卒で現在工学部助教授。山本氏は工学部の助教授

②平成3年度大学院設備拡充費

「分岐合流管・渦室・潤滑面ほか各種流路内の流動とエネルギー損失に関する研究」伊藤英覚・青木弘・小川明・菅野宗和・湯浅達治の諸先生。レーザー流速計一次元システムなどで、経費は約5,945万円。

◇福島空港が3月20日に開港

校友会報No54(H.3.3.)で、大越茂俊さん(土13回卒)が紹介しました「福島空港」が平成5年3月20日に開港します。工学部から直線距離にして南南東約15km。札幌、名古屋、大阪、福岡に定期便。(た)

平成5年3月1日

日本大学工学部校友会長 半沢忠

平成5年度通常総会通知

会員各位には益々ご発展ご活躍のこととお慶び申しあげます。
さて、日本大学工学部校友会平成5年度通常総会を下記のとおり開催いたしますので、皆様には、ご多用中とは存じますが、先輩後輩お誘いあわせの上、多数ご出席くださいますようご通知申し上げます。

記

1. 日 時 平成5年4月17日 (土)
午後2時より総会、同3時30分より懇親会
2. 場 所 日本大学郡山研修会館
所在地：郡山市愛宕町2-22
☎0249-23-4193
3. 総会・議題 (1) 平成4年度会務および決算報告
(2) 平成5年度事業計画および予算(案)審議

- (3) 役員選出 (4) その他
4. そ の 他
(1) 総会終了後、引き続き同所において大学
関係者を迎える懇親会を予定しています。
(2) 研修会館宿泊希望の方は、5日前までに
母校庶務課に申し込んでください。
☎0249-44-1300代

◇課外活動各部の活躍(平成4年1月～12月)

(学生課調べ)

- 日本大学体育大会 (10/8～10/17)
 - ▽剣道部 1位
 - ▽柔道部 3位
 - ▽卓球部 3位
- 第43回東北地区大学総合体育大会
(6/26～6/30)(弘前市)
 - ▽弓道部 3位
 - ▽卓球部 3位
 - ▽陸上競技部 個人 石崎優子 3,000m 2位
古結健史 100m 5位
- その他の東北大会
 - ▽第8回東北学生アーチェリー連盟競射会(8/10)
(仙台市) 女子個人 石橋紀美恵 1位
 - ▽第43回東北学生パワーリフティング選手権大会
(8/10) (仙台市) -82.5kg 山口育男 2位
 - ▽第23回東北ボウリング個人選手権大会 (8/10)
(仙台市) 小田原幸央 1位
- 全国大会出場
 - ▽剣道部
第40回全日本学生剣道優勝大会 (10/11) (尼崎市)
団体ベスト16 個人出場 飯島慎司

〔事務局便り〕

- ◇平成4年版「会員各簿」を発行しました。多くの会員から予約がありましたが、まだ残部がありますので、購入ご希望の会員には送料込みで3,500円で配布しますので申し込んで下さい。全会員33,440名を網羅し622ページの大冊です。
- ◇「校友会報」へ、会員からの広告を常時募集しています。詳細は事務局にお問い合わせ下さい。
- ◇OB会、同級会など開かれる場合、事務局に連絡がありますと可能な限りの協力をしたいと思います。

▽ボウリング部

第18回全日本選抜ボウリング選手権 (5/15～17)
(国分寺パークレーン)

▽ボディビル部

第19回全日本学生パワーリフティング選手権大会
(6/7) (埼玉大学)

▽弓道部

第40回全日本学生弓道選手権大会 (8/10～13)
(日本武道館)

▽洋弓部

第5回全日本学生フィールド・アーチェリー選手権大会(10/23～11/2) (美濃アーチェリークラブ)

○定期発表会等

▽演劇部

第6回春季公演「ボクサー」(6/27) (工学部)

▽ワンダーフォーゲル部

第33回関東・東北合同ワンデリング (8/26～29)
(いわき市)

▽写真部

第36回写真展(11/20～30) (やまのいカルチャーセンター)

▽機械研究会

昭和シェル・カーグラフィック主催マイレッジ・
マラソン (11/28～29) (鈴鹿サーキット)

校友会報 第56号

発行所 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1

郵便番号 963-11

電話番号 (0249)44-1327

振替口座番号 郡山5-1990

発行部数 37,000部

発行日 平成5年3月1日

発行者代表 会長 半沢忠

編集者代表 事務局長 橋本寛